

臨床検査って？

人体(患者様)から取り出した血液などや、得られた排泄物(尿・便)などを分析したり、また、直接人体(患者さま)に測定機器などを装着し、器官や臓器の機能を調べ、その結果を医師に提供し、病気の診断および治療に用いられる現在の医療にはなくてはならない手段です。こうした検査は、下記のような7つの検査分野に大別されます。

- 一般検査 尿中にタンパクや糖が増えているか、便中に血液が混じっているか、寄生虫の卵があるかを調べる検査
- 血液学検査 赤血球や白血球などの細胞に異常がないかどうか、また、血液が固まりにくいかなどにより、貧血や血液の病気を調べる検査
- 生化学検査 血液や体液に含まれている成分を化学的に分析し、その成分の増減によって病気との関連を調べる検査
- 微生物学検査 病気の原因となる細菌やウイルスなどを探し、発見されたその細菌にどのような薬が有効かなどを調べる検査
- 免疫検査 感染症やアレルギーのことなどを調べる検査
- 輸血検査 血液型の判定や臓器移植の適合性などを調べる検査
- 生理学検査 人体に電極などを装着し測定機器を用いて、心臓、肺、神経・筋肉などの機能を調べる検査
- 病理学検査 人体から取り出された組織の病変の広がりや悪性度を診断するための標本を作製する。また細胞の悪性度などを調べる検査

診断においては、科学的な検査データの裏付けがあつてこそ、より正確な診断が出来るのです。医療の進歩と高度化は検査データを抜きには語れません。骨髄移植の時の血液検査や、O-157などの微生物検査、脳死判定の脳波検査などを行ったり、超音波診断装置やMRIなどのハイテク機器を使って、精密な診断基礎データを医師に提供する“医療のベース部分を影で支える、重要な役割を担う仕事”です。ハイテク医療機器を駆使して患者の生命を守るどちらの仕事も、ハイテク医療機器を用いて患者の命を守ることを究極の目的としています。仕事の内容は、臨床検査技師の場合、医師の指導・管理のもと、微生物学的検査や病理学的検査、血清学的検査、生化学的検査などを行う。光学的測定機器や分析装置を使用して、診断・治療に必要な科学的データを、医師に提供するのが一般的な業務です。また、血液型や検査に適合するかどうかの試験を行い、輸血事故を未然に防ぐことも仕事のひとつです。